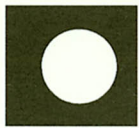


～一千有余年の悠久の歴史～

勇壮、華麗に甦る戦国絵巻

旗指物 (はたさしもの) その種類は2,600を越す。

様々な模様、色彩と数の多さから野馬追は、別名「旗祭」とも言われているほどである。又家紋を象徴する武具であり、神社にあっては祭具でもあり、いずれも長い歴史と古い伝統を誇るものばかりで、皆貴重な文化財である。



役旗

軍者(ぐんじや)

軍者は、騎馬隊を統率する任に当たる。旗指物は、下りむかへ旗。又は先祖伝来の旗。

お使い番(おつかいはせ) 上司の命を受け、行列の前後を走り回り伝令等の任に当たる。

組頭(くみがしら)

上司の命を受け組をまとめる任に当たる。旗指物は下り駒の絵である。配備箇所により色が異なる。

中頭(なかがしら)

組頭の補佐役で、旗指物は白地に下り駒を黒書きしたものである。配備箇所により色が異なる。

三色旗(さんしよくはた)

三社合同の意味をもつ重要な旗である。(赤は太田神社の印、黄は小高神社の印、白は中村神社の印)

郷大将(ごうだいしやう)

郷を代表して総大将を補佐する。母衣を背負う。

九曜旗(くようはた)

相馬氏の家紋の旗である。幕紋、行列の幟旗にも用いる。

総大将大纏(そうだいしやうおまて)

相馬氏が子々孫々に相伝え、相馬の国旗とも言われている。平将門が用い、日輪は、光明さかんにして世界の闇を照らす陰陽和合の旗である。

侍大将(さむらいだいしやう)

組頭以下を統率する。九曜紋の差旗を使用できる。

小高郷旗(おたかごうき)

白地に黒丸の旗、雲雀ヶ原の南側に立て、集會場所を意味する。(陣屋)

